

#### 4. 御園神社

八幡市上奈良の集落東方、木津川堤防の南に位置する。参道の前を横切る道はかつて「奈良街道」と呼ばれ、現在も木津川左岸の重要な交通路となっている。神社は字御園にあるが、周辺の字名には、宮ノ東、宮ノ西、<sup>さくり</sup>雙栗前などがある。『村誌』には「雙栗社トモ云」とあり、式内社の雙栗社に充てていた時期があったことが記され、地名と関連すると考えられる。『村誌』が挙げる祭神は天児屋根命、武甕槌命、経津主命である。また『村誌』が記す末社の塞神社を合祀する。塞神社の祭神は道返大神とされ、おそらく綴喜郡と久世郡の郡界を意識して設けられた社であると考えられる。

石造物には燈籠のほか、鳥居、社号標、手水鉢、石橋などがあり、とりわけ大型の神明形石燈籠が目を引く。これを含め狩野氏の寄進によるものが多い。社号標は大正4年（1915）に天皇即位の御大典記念に建立された。参道入口にある鳥居は文政5年（1822）、このほか境内の西側に昭和19年（1944）建立の鳥居がある。

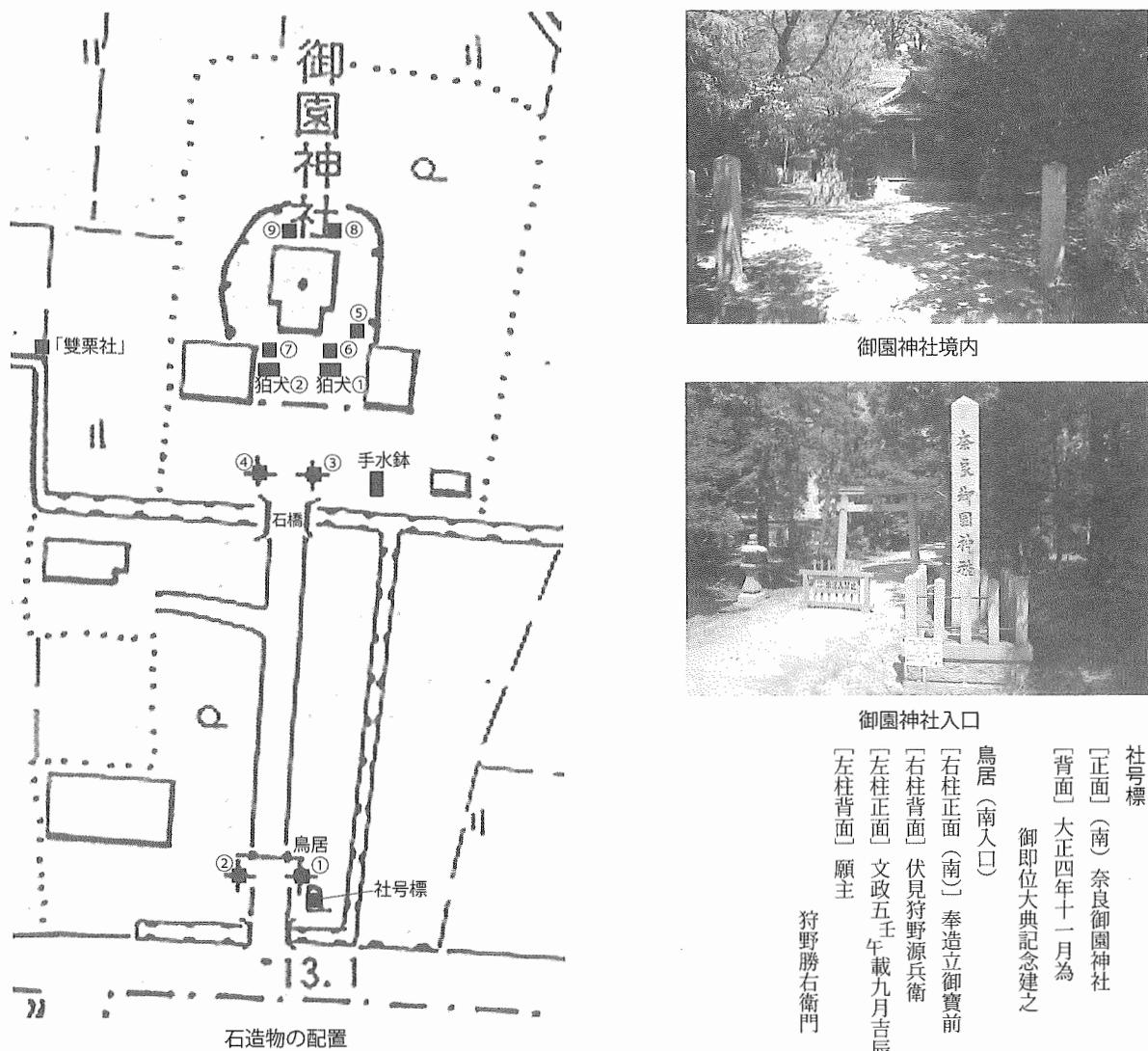


図 11 御園神社 (1)

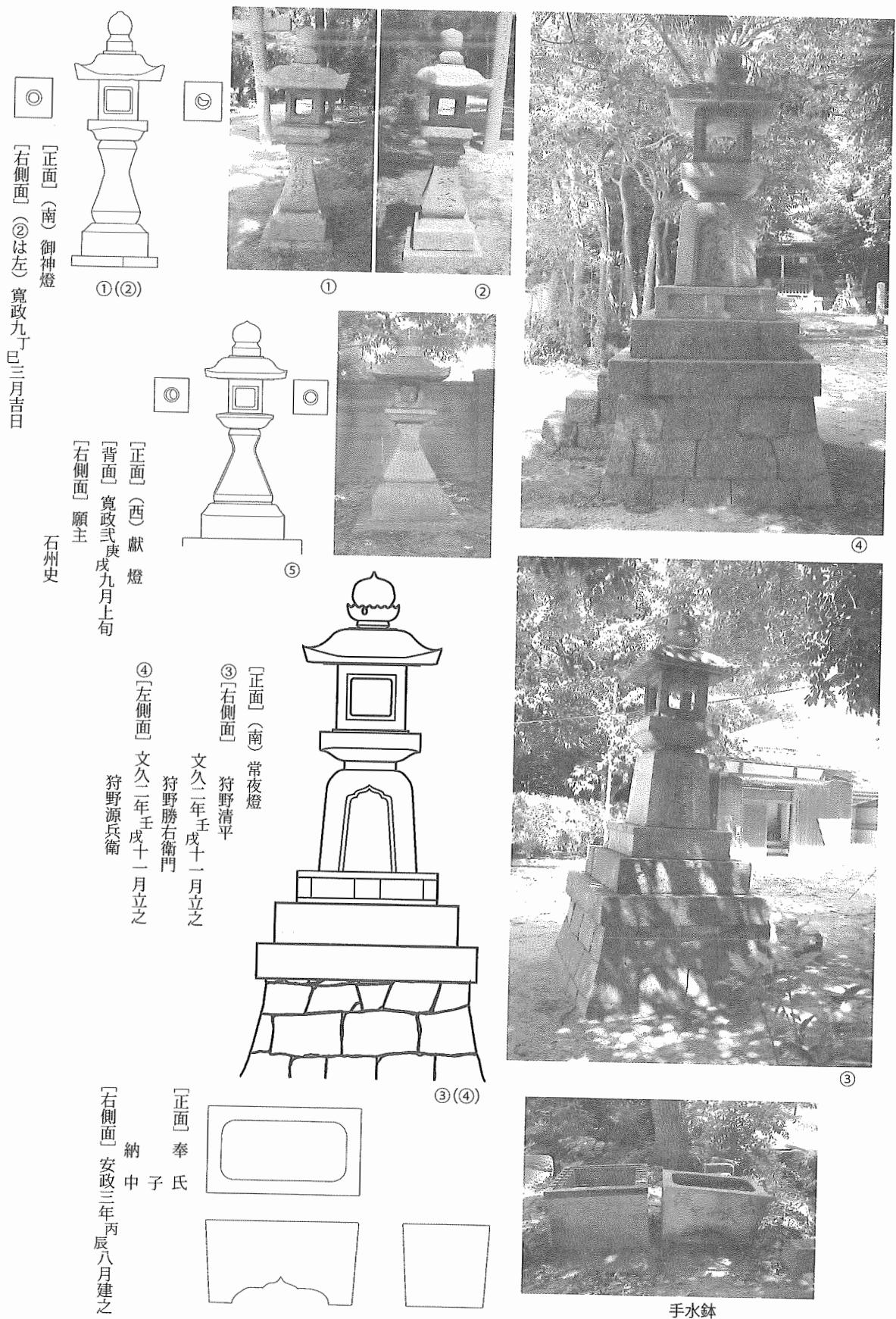


図 12 御園神社 (2)

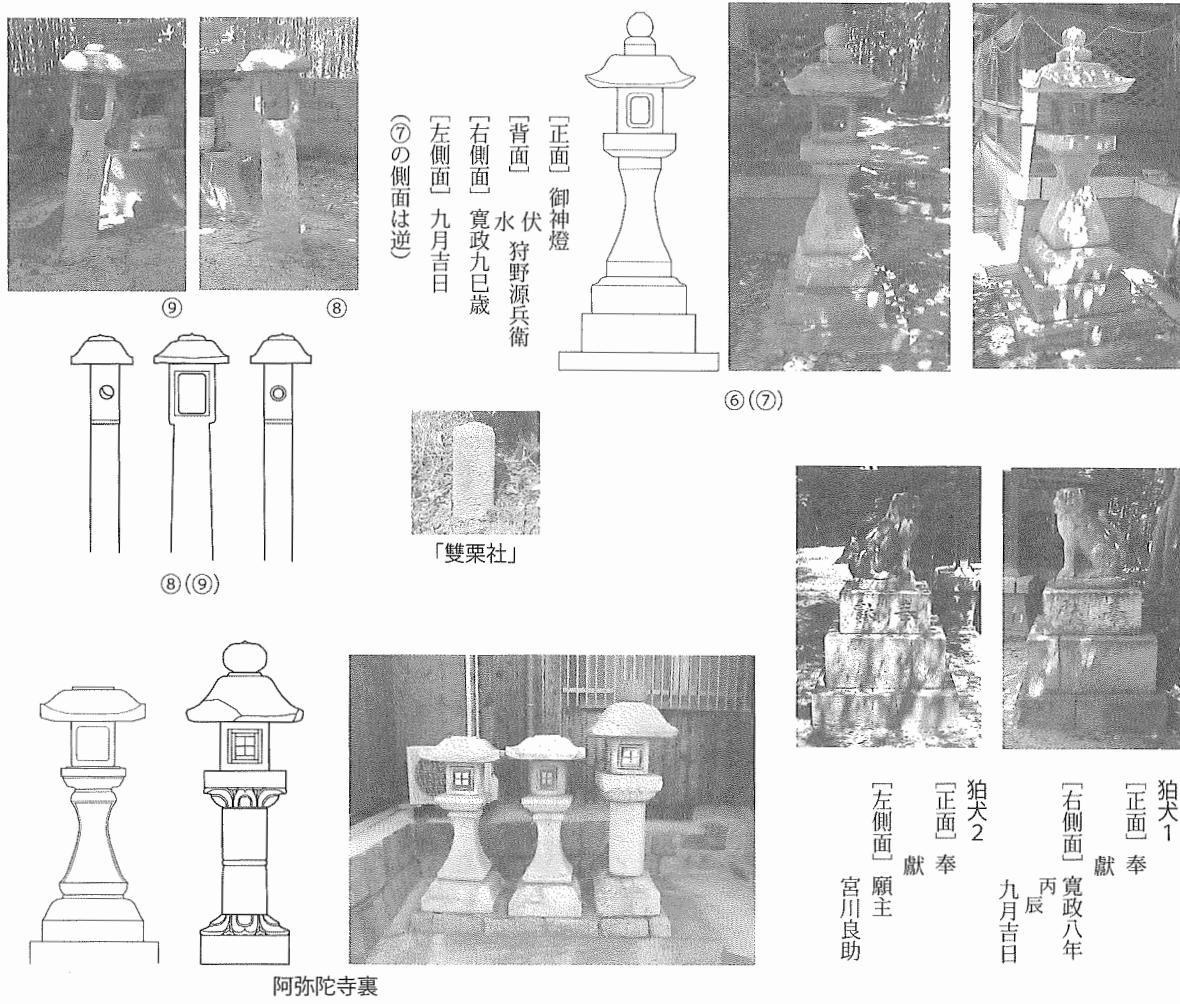


図 13 御園神社（3）

御園神社境内から西方 30 m ほどの位置に「雙栗社」と記す石柱が埋もれている。年代等は不明であるが、先に触れた『村誌』の記述や「雙栗前」の字名とともに、式内社雙栗社を標榜していた時代の名残であると考えられる。

上奈良の集落内にある阿弥陀寺の裏手に 3 基の石燈籠が据えられている。一対の撥形石燈籠と 1 基の円柱形燈籠である。無銘であるが、江戸時代中頃のものと考えられる。  
（菱田哲郎）